

都市変革 の新構想： 日仏の視点から

日時: 2024年11月29日(金)
13:30-16:30 (受付開始 13:00)

会場: 福井県立大学地域経済研究所
1階企業交流室(オンライン併用)

人口減少の下で、日本では、中心市街地のあり方や空き家・空き地の活用の仕方が、重要な検討課題になっています。フランスでは、環境を重視する観点から、緑地を減らす市街地化を規制する施策が打ち出されてきています。本セミナーでは、フランス国立日本研究所のランギヨン=オーセル氏より、フランスの新しい土地利用政策「人工化ゼロ目標」(ZAN)について、フランスの都市を事例に、日本語で紹介していただきます。新潟大学の寺尾仁氏には、新潟市の中心商店街の再生を事例に新たな視点の重要性について解説していただきます。お二人の講義を受けた討論では、今後の福井における市街地再開発のあり方や都市と自然との関係について、考えたいと思います。

受講料無料 ■会場定員 30名 ※申し込み多数の場合は先着順とします。ただし事前登録が必要です。下記 URL もしくは QR コードへアクセスし、お申込ください。

<https://forms.gle/uCBSX4JhFzXWBUjs5>

【お問合わせ】福井県立大学地域経済研究所事務局
(担当 中島)

TEL.0776-61-6000 (内線 6104)

Fax: 0776-61-6017

e-mail: keiken@fpu.ac.jp



第1講

「フランスにおける環境を重視した新たな土地政策—「人工化ゼロ政策」を中心に」

講師: ランギヨン=オーセル・ラファエル
日仏会館フランス国立日本研究所・研究員

第2講

「中心商店街再生を導くもの：施設から信頼とテイストへ」

講師: 寺尾仁
新潟大学人文社会科学系・フェロー



ランギヨン=オーセル・ラファエル氏は、リヨン大学で地理学・都市計画学博士号を取得し、都市開発と政策体制、資本主義の進化を専門とする。現在、日仏会館(東京)研究者、ジュネーブ大学准研究員。フランス国立高等師範学校卒。東京の都市再生に関する論文を執筆し、2023年から住宅と土地の空間的正義に関するフランス公的機関の資金提供プロジェクトを主導。

「Land parsimony practices, comparative trends and outlook」等の論文を発表。



寺尾仁氏は、早稲田大学とトゥールーズ社会科学大学(フランス)で、都市計画・不動産の法律を学んだ。新潟大学教養部・工学部・経済科学部准教授、パリ国際大学都市日本館館長を経て、現在は新潟大学人文科学系フェロー。専門は都市法、不動産法で、とりわけ荒廃マンション、中心市街地、中山間地域など衰退地域の再生に力を注いでいる。主な業績に『アートは地域を変えたか』『壊さないマンションの未来を考える』などがある。